

視写を通して文章の構成に気づき、その構成を活かして文章を書く授業

第1学年2組 国語科学習指導案

指導者 吉田 佳織

1. 単元名 クイズ！だれが、たべたのでしょうか？

2. 学習材 「だれが、たべたのでしょうか」（教育出版 ひろがる言葉 1年国語上）

3. 単元について

（1）本単元でつきたい力

本単元では、主に、小学校学習指導要領・国語[第1学年及び2学年]の「B 書くこと」「C 読むこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

知識及び技能

内容 カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。

B 書くこと

内容 イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

C 読むこと

内容 ウ 文章の中で重要な語や文を考えて選び出すこと。

言語活動例 ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。

本単元では、学習材「だれが、たべたのでしょうか」の視写本の作成を通して、「誰が」「何を」「どのように食べた」のかを読んでいく。また、他の動物の食べた跡に関心を向け、図鑑や本で調べたことを視写本の続きとして書いていく。これらの活動を通して、文の構成を理解し、読んだり書いたりする力を高めることをねらいとする。

（2）単元の目標

【知識及び技能】

○文章を読み、視写をすることで、「誰が（主語）」「食べた（述語）」の関係に気付くことができる。

（1（1）カ）…**知**

【思考力、判断力、表現力等】

○「クイズ！だれが、たべたのでしょうか？」を作るために、構成に気をつけて書くことができる。

（2B（1）イ）…**思**

○「誰が」「何を」「どのように食べた」のか、文章の中で考えて選び出すことができる。

（2C（1）ウ）…**思**

【学びに向かう力、人間性等】

○動物が食べた跡に関心をもち、「クイズ！だれが、たべたのでしょうか？」の作成に見通しを持って取り組もうとしている。
…**主**

(3) 指導観

[見出す]

□本時（本単元等）の目標（めあて・ねらい）を児童生徒に明示している。

①単元の目標を知り、学習のゴールに向けて意欲的に学習に取り組めるようにする。

第1時で教師作成の視写本を提示する。視写はこれまでの学習で経験し、意欲をもって取り組んできた活動である。この時間に提示する教師モデルは教科書を視写したところのみにとどめ、用紙の上段に写真、下段に視写をした文章があることをおさえる。文章の構成に気づくこと、写真から様子を読み取ることに重点を置くため、今回の視写ではカラーの写真を使用する。

また、第6時では視写本の続きとして、教科書にはない食べた跡について書いたページをモデルとして提示する。視写本＝教科書の視写というイメージを持っている子どもにとって、続きがあることは一つステップアップした活動といえるだろう。モデルを2回に分けて提示することで、子どもがそれぞれの活動に集中し、意欲を継続させて学習に取り組めるようにする。

[自分で取り組む]

□児童生徒が解決の見通しをもつことができるように、学習のめあてや既習の内容との相違点等を児童生徒とともに確認している。

②文章の構成を色分けして視覚的に捉えられるようにし、読んだり書いたりしやすくする。

「だれが、たべたのでしょうか」の文章は、①問題場面の導入（たべもの）→②問題事象の提示（ようす）→③問いの設定（とい）→④答えの提示（こたえ）→⑤問題事象に関連した補足説明（せつめい）となっている。文章の構成を視覚的に捉えられるように色分けしてサイドラインを引き、どこに何が書かれているかすぐわかるようにする。図鑑や本で調べて文章を書く時も、この構成に当てはめれば本の続きを書くことができることをみんなで確かめる。書くことへの抵抗感を減らし、見通しをもって学習を進められるようにしたい。

□児童生徒が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりする時間を確保している。

③視写本のワークシートを数種類用意し、子ども自身が自分で取り組めるものを選択できるようにする。

視写本を作成するにあたって、ワークシートを3パターン用意する。①全て自分で視写を行うもの②キーワードとなる言葉を空欄にして、穴埋めの状態になっているもの③なぞり書きをするもの、である。時間の中で自分ができそうなものを選ぶことで、意欲を継続させ、自信をもって学習に取り組めるようにしたい。また、図鑑や本で調べたことを書く時にも2パターンのワークシートを用意する。①全て自分でかくもの②一部穴埋めにして、()の中に言葉を選んで書くもの、の中から自分で選んで学習に取り組めるようにする。

□児童生徒自ら情報を収集し調べることができるように、環境等を用意している。

④動物や生き物が食べた跡が載っている図鑑や本を教室に並べ、調べて書く意欲に繋げる。

単元の始まりに合わせて、動物や生きものが食べた跡が載っている図鑑や本を教室に並べ、いつでも手に取れる環境を作る。教科書にある食べた跡だけでなく、視野を広げて他の動物や生きものの食べた跡にも興味を持てるようにしたい。また、学習したことを活かしてオリジナルの本を作成するための資料として活用する。

[広げ深める]

□児童生徒が自分の考えを伝える場面を設定している。

⑤完成した本を友達と読み合うことで、様々な考えに触れる。

オリジナルの本が完成したら、クラスの友達と本を読み合う時間を設定する。調べて書いたページは、友達がどんなことを書いたのか気になる児童も多いだろう。自分の書いた本を紹介したり、友達が図鑑や本からどんな食べた跡や動物（生き物）を選んだのか、どのような表現をしたのかを知ったりすることで、様々な考えに触れられるようにしたい。また、完成した本を図書室に置いてクラスの友達だけでなく、多くの人に読んでもらえるようにする。

[まとめあげる]

□児童生徒が板書やノート、作品等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場面を設定している。

⑥学習の振り返りをする。

毎時間授業の終わりにその日の自分の学習を振り返る時間を取る。めあてに対して、よくできた(◎)、できた(○)、もう少し頑張る(△)の記号で振り返りを行う。わかったことや頑張ったことを振り返ることで、自分の成長を実感できるようにしたい。また、単元の終わりには単元全体の振り返りを行い、自分ができるようになったことや頑張ったことを認め合う時間を確保する。

4. 全体指導計画(8時間扱い)

次	時	主な学習活動	○教師の支援 ☆評価(方法)
第一次	1	題名や写真から誰が食べた跡なのかに関心をもつ。 ・題名からどんなことが書かれているか、写真から誰が食べたのかを予想する。 ・本文を通して読み、だれが食べたのか確認をする。 ・教師作成の視写本を見て、これからの学習の見通しをもつ。	○題名や写真から予想する時間を十分確保し、読んで確かめようという気持ちが高められるようにする。 ○着語読みを行い、言葉の意味を丁寧に確かめながら読み進めていく。 ○モデルを提示して、学習の見通しをもてるようにする。 ☆動物の食べた跡に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。(㊦発言・ノート)
	2 3 4	「だれが、たべたのでしょうか」の視写本を作成する。 ・音読をする。 ・写真と言葉を対応させて、じっくり読む。 ・視写をする。 ・文の構成「①たべもの」「②ようす」「③とい」「④こたえ」「⑤せつめい」を確かめる。	○ワークシートを3パターン(ます目のみ・穴埋め・なぞり)用意し、子どもがやりたいものを選んで取り組めるようにする。 ☆視写を通して、主語と述語の関係に気づくことができる。(㊦視写本) ☆「誰が」「なにを」「どのように食べた」のか、文章の中で考えて選び出すことができる。(㊦発言・視写本)
第二次	5 本時	教師作成のモデル(P.115「しかがたべたあと」)から文章の構成を確かめ、クラスのモデルを作成する。 ・教師モデルの分析をして、構成をおさえる。 ・P.115「うさぎがたべたあと」で写真の分析をする。 ・文章を書き、絵を描く。	○モデル分析で文章の構成を色分けする。 ○モデルで使った食べたの資料をモニターに映して提示する。 ○しかが食べた跡の写真をモニターに映して提示する。 ☆他の動物が食べた跡に関心に向け、これからの学習に向けて意欲と見通しをもつことができる。(㊦発言・ワークシート) ☆構成に気をつけて文章を書くことができる。(㊦ワークシート)
	6	図鑑や本から視写本に付け足したい食べた跡を見つけ、ワークシートに記入する。 ・図鑑や本を読み、書きたいものを選ぶ。 ・文章の構成に合わせて、ワークシートに書いてく。	○図鑑や本を読む前に、「食べた跡」を見つけることを確認する。 ○図鑑や本から探すことが難しい子には、教師が用意した食べた跡で書いてもよいことを伝える。 ☆既習事項をもとに、「クイズ!だれがたべたのでしょうか?」の作成に向けて見通しをもつことができる。(㊦発言・ワークシート)
	7	調べたことを視写本の続きとして書く。 ・用紙に文章と絵を描く。	○自力で書くことが難しい子どもには、前時のワークシートからどう書いていけばよいかを一緒に確かめる。 ○次時で友達と交流することを伝えて相手意識を持たせ、字や絵を丁寧にかけるようにする。 ☆構成に気をつけて文章を書くことができる。(㊦クイズ!だれが、たべたのでしょうか?)

並
行
読
書
(課
外)

8	<p>「クイズ！だれが、たべたのでしょうか？」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に作った本を紹介したり、友達のクイズを聞いて答えたりして交流する。 ・「だれが、たべたのでしょうか」の学習を振り返り、感想を交流する。 	<p>○自分の文章を読み、友達の本を見ることを全体で確認する。</p> <p>○たくさんの考えに触れることができるよう、交流の時間を十分に確保する。</p> <p>☆単元全体を振り返ることができる。</p> <p>(㊟発言・ノート)</p>
---	---	--

5. 本時の指導 (5/8)

(1) 目標

- ・既習事項をもとに、「クイズ！だれがたべたのでしょうか？」の作成に向けて見通しをもつことができる。
- ・構成に気をつけて文章を書くことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問・子どもの反応	○教師の支援 ☆評価 (方法)
2	1. 教師作成のモデル(教科書P.115「しかがたべたあと」)と出会う。 ・新しいページがある！ ・誰が食べたんだろう？	○モデルの文章を拡大コピーして黒板に貼る。
3	2. モデルの分析をして、文章の構成を確かめる。 ・紙を2枚使っているね。 ・絵を描いている。 ・問いの文や答えの文がある。	○書いてある項目ごとに色を変えてサイドラインを引いて、構成を視覚的に捉えられるようにする。 ○これまで視写をしてきた教科書の文章と構成が同じことをおさえる。
5	3. 本時のめあてを知る。	○写真をモニターに映す。
	写真でクイズをつくってみよう。	
10	4. 教科書P.115「うさぎがたべたあと」の写真进行分析する。 ◎食べた跡の葉っぱはどうなっている？ ・ぎざぎざしている。 ・まっすぐ切れている。 ◎しかはどうやって葉っぱを食べたのだろう？ ・歯を使って食べた。 ・噛み切って食べた。	○構成の項目ごとに子どもに問いかけをしていく。 ○子どもの反応を項目ごとに板書していく。 ○写真をよく見て気づいたことを話す時間をしっかり取り、今後自分で調べて書く活動に繋がれるようにする。
20	5. 分析をもとに、構成に当てはめて本の続きを書く。	○1ますあける、句読点の位置などに気をつけて正しく書くように声をかける。 ○ワークシートを2パターン(全て自分でかくもの・一部穴埋めのもの)用意し、自分で選んで取り組めるようにする。 ○分析で出てきた言葉や、自分で考えた言葉を使って文を書いていくことを確認する。 ○机間指導をしながら自分のペースで書くように個別に声をかけたり、支援したりする。 ☆構成に気をつけて文章を書くことができたか。(㊟ワークシート)
3	6. 学習の振り返りをする。 ・めあてに対して、◎ ○ △で自己評価をする。	☆既習事項をもとに、「クイズ！だれがたべたのでしょうか？」の作成に向けて見通しをもつことができたか。(㊟発言・ワークシート) ○児童の振り返りを見て、頑張りを認め、次の学習に意欲を繋がれるようにする。
2	7. 次時以降の学習の見通しをもつ。 ・教師モデル(本で調べて作ったクイズ)のクイズに挑戦する。	○教師モデル作成のために使用した本を紹介し、次時の意欲に繋がれるようにする。